

下野コミュニティエフエム第24回放送番組審議会議事録

開催日時：2024年6月13日10時00分より	開催場所：下野市役所第301会議室
出席委員：猪瀬・川俣・鈴木・松本	：4名

※発言については趣旨を変えない範囲で一部を省略・要約し、順不同で記載しています。

委員全5名のうち4名の出席をもって会の成立とし、10時00分に開会した。

1. 報告事項

事業者より前回審議会以降の運営報告があった。

- ・4月18日に、特別番組「しもつけピタッとラジオ」の出張放送を天平の丘公園で実施、初の試みとして平日に2時間の生放送を行った。平日ではあったが園内特設スタジオにも多くの市民に来ていただいた。
 - ・市内各中学校の職場体験を受け入れ、先月から今月にかけて石中・国中・南河内小中の生徒さんが番組出演や学校のスポットCM制作等を体験した。11月に南河内第二中を予定。
 - ・5月22日にJアラートの割り込み放送訓練を実施、支障なく完了した。
- (ケーブルビジョン株式会社ラジオ事業部放送局長)

2. 審議事項

■議題①…番組内容について

事前に送付した資料(記録物)を各委員が聴取し、それに対して各委員が意見を述べた。
 ※2024年5月16日放送「アフタヌーンプラザ」

事業者：
 (番組の説明)

川俣委員：

- ・トークに抑揚があり、またリスナーへの語りかけの口調が良い。
- ・「百人一首」のコーナーで、歌の解説を聴いているうちにその歌を忘れてしまうので、解説の後に歌をもう一度読み上げると良い。
- ・「東京博物館」の話はテンポが悪く感じた。
- ・催事の紹介では、誰が話しているのか判りづらく、BGMも合っていない気がした。
- ・「あのときどんなとき」のコーナーでは、「そして～」・「そして～」が繰り返され、トークにも脈略がなかった。

松本委員長：

- ・「百人一首」のコーナーは歌を1回しか詠まないのので説明されても理解が追いつかない。
- ・催事(の取材)の紹介は、詳しい説明がないまま始まった印象で、どのような内容なのか全く入ってこなかった。また、BGMは不要かと思う。
- ・パーソナリティの意見や主張が全体的に少なく、台本を淡々と読み上げているようで、少し物足りなさを感じた。

鈴木委員：

- ・トークが比較的ゆっくりした口調で聴きやすかった。
- ・トークで「～してくだーさい」・「～してみまーしょう」・「～になりましたっ」等となることが多く、癖なのかも知れないが、気になった。昔の学生運動のアジ演説のようだ。
- ・暮らしの話題はあったが子育ての話がなかった。
- ・「百人一首」の話は100回できるから良いが、画像がないため歌の説明が難しいだろう。
- ・他のパーソナリティと雰囲気が良い意味で違い、教養番組的で生活臭が感じられない。トークが講義調で、先程あった個人の意見がないという部分に繋がってくるのかと思う。他との差別化という点で良いのかも知れないが、番組の趣旨からは逸れている気がする。
- ・加盟店レポートの時間で紹介された催事は、主義主張を持つある団体の主催であった。パーソナリティはこれについてコメントをしなかったが、評価を避けたのか。

事業者：

・番組内でのレポートや催事の取材等の紹介に関してはパーソナリティの意思は全くない。今回も市からの情報に基づき市内での開催の行事であったため取材し紹介したに過ぎない。そこにはパーソナリティの感想等私見は入れない。むしろ、入れないように決めてある。放送局は中立でいるのが基本であり、感想を述べるとそこに特定の意志ができてしまう。

鈴木委員：

この団体(の催事)をどうして採り上げたのか。よく採り上げたと思う。

事業者：

市からの情報に基づいて市内で実施される催事ということで取材しその録音を放送した。その団体や催事を特段に支持しているわけではなく、ただ事実として放送したのみである。放送した録音の編集にも思想的な意志はなく、単に時間等の都合による。

松本委員：

このような取材の編集には聴取者に誤解を生じさせないように注意する必要がある。

■議題②…その他の事項について

- ・緊急割込放送について委員より質問と意見があり事業者が回答した。

3. その他

- ・次回の開催日時を事務局より提示した。

以上、11時00分に閉会した。